

時間割コード	KB7901	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	藤田 文子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

独唱の喜び

授業の概要/Course Overview

個別指導とグループ指導を含む。アクティブ・ラーニングに即して言えば、個人的な表現と、ディスカッションなどを含んだ集団による表現活動への援助を目的に展開する授業である。個人に即して言えば、正しい発声とは何かを理解し、歌唱の基礎的なトレーニングを積み重ねることとする。また、ピアノ伴奏などとの関係性を正確に把握することとする。

キーワード/Keyword(s)

正しい発声、癖のない声、自由な呼吸、様式感、リラックス

到達目標/Learning Objectives

自分の声について理解する（話し声、歌声）。自分の興味・関心や、他者理解の上に立った自分なりの表現をすることができる。
ディプロマポリシー：①世界の俯瞰的理解②専門分野の学力、③問題解決能力・コミュニケーション力、④社会人としての姿勢

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

講義：この授業の進め方 独唱とは何か

第2回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第3回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第4回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第5回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第6回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第7回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第8回：発表（試験）

演習：第1回から第7回までに学んだことを基礎に、発表（試験）する。前半は伴奏合わせ、後半は試験。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第7回まではアクティブ・ラーニングの技法であるソクラテス式問答、ピア・インストラクション、アナリストティック・チームなどの技法を用いる。

【授業外学修】

- (1)学生個人の興味・関心も考慮しながら、発声・曲の選択、個人レッスンをを行うので、十分な予習・復習が望まれる。
- (2)選曲に関しては、教員の持参する教材も参考にすが、学生自身が持参することも考慮に入れていただきたい。
- (3)独唱を学修するので、健康管理に十分配慮することとする。

履修上の注意/Notes

独唱について興味・関心があることを前提に授業を展開していきます。体調をよくしておくこと。
オフィスアワー：水2限(予約すること)

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 独唱の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその表現ができています。
- A : 独唱の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその表現ができています。
- B : 独唱の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその表現ができています。
- C : 独唱の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその表現ができています。
- D : 独唱の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその表現ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目のまとめで試験を兼ねた演奏会を行う(50%)、授業態度など(50%)。作品に関して理解したことを声楽技術をもって表現しようとしているかを見る。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、その都度必要なものを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・高等学校現場における常勤講師経験のある教員が、その経験を活かして、今日的な課題（現場での実技指導、音楽科教育の実態等）への対応を指導する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7902	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋木 久美				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

仮名の書に親しむ

授業の概要/Course Overview

一般に「仮名の書」とは、平安時代の仮名の書の伝統に立脚したものをさします。本授業では、仮名に関する基礎基本を学び、仮名の書の鑑賞や実技練習を行います。また和歌を題材にした作品制作やその鑑賞活動により、仮名の書の美しさや表現方法について知識を深めるようにします。

キーワード/Keyword(s)

平仮名 変体仮名 草仮名 単体 連綿 行書き 散らし書き 料紙 古筆

到達目標/Learning Objectives

基礎な学習を通して、仮名の書の基本的な書き方や鑑賞方法を習得することができる。
基本的な散らし書きの書き方を理解し作品制作ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと講義
（ミニツツペーパー）仮名の成立や変体仮名、連綿などに関する知識を習得し、理解を深める。
第2回：仮名の線と筆使い、基本の運筆練習
（ミニツツペーパー）仮名の線の特徴を理解する。
第3回：基本の運筆練習をふまえて「いろは」を書く、変体仮名の練習
（ミニツツペーパー）仮名の字形や筆使いの特徴を理解する。
第4回：和歌を書く
（ミニツツペーパー）変体仮名や連綿の効果について理解する。
第5回：行書きと散らし書きについて
（ミニツツペーパー）散らし書きの効果や全体の鑑賞をもとに意見交換を行う。
第6回：料紙について 散らし書きで和歌を書く
（ミニツツペーパー）散らし書きした作品の批評をもとに、意見交換を行う。
第7回：散らし書き作品の制作と鑑賞
（グループディスカッション）作品を鑑賞し、意見交換を行う。
第8回：まとめ 仮名の書の鑑賞方法や表現について再考する

【授業外学修】

- (1) 授業で取り上げる変体仮名については字母や読みを確認すること。
- (2) 仮名の代表的な名筆について調べ、理解を深めるようにすること。
- (3) 硬筆を使用して、字形や連綿の方法などの復習を行うようにすること。

履修上の注意/Notes

(1)適宜、相互批評などを行ない、鑑賞活動も行います。(2)遅刻厳禁。(3)オフィスアワー：木曜日5時間目
(kumi.saiki.9331@vc.ibaraki.ac.jp) (4)用具用材の費用(1000円程度)がかかります。

情報端末の活用

作品は、その画像を教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：仮名の書に関する基本的な知識を十分に習得し、仮名の筆使いが表現できている。
A：仮名の書に関する基本的な知識を習得し、仮名の筆使いが表現できている。
B：仮名の書に関する基本的な知識をおおむね習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
C：仮名の書に関する基本的な知識を最低限習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
D：仮名の書に関する基本的な知識を習得できておらず、仮名の筆使いが表現できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行いません。毎回の振り返りシート(60%) いろは、散らし書きの作品(25%) レポート(15%)

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	梅雪かな帖
著者名	安東聖空
出版社	松林堂
出版年	1970
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	書道テキスト
著者名	大東文化大学書道研究所 編
出版社	二玄社
出版年	2007
ISBN	978-4544141092
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
----------	--

専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7903	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	島田 裕之				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

世界のアニメーション文化

授業の概要/Course Overview

絵を動かすというアニメーションの映像表現は、映画が開発された当初から様々な試みがなされてきた。それらは、国や文化により多岐に分岐し現在に至っている。その様々なアニメーションを鑑賞することを通して各国の文化観や映像文化観を理解し、アニメーション文化の概要とアニメーションの多様な価値観を、ライティング・ディスカッションやブレインストーミング等により学生同士が相互理解する。

キーワード/Keyword(s)

アニメーション、文化理解、映像表現、作品解釈、作品分析、見解の交換

到達目標/Learning Objectives

アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観を理解することができる
 アニメーション文化の概要を理解し、アニメーションの多様な価値観を理解することができる
 映像作品に対しての自分の見解を持つこと、また他者の見解を受けとめることができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回【授業内容】シラバスを用いたガイダンス 国による映像文化認識の違い（授業内容）
 （映像活用授業・アクティブラーニング手法）グループで複数の映像を鑑賞しその表現の違いについて協議、発表する
 【授業外学修】これまでに観たアニメーション作品について作品名、年代、内容などを確認しておく

第2回【授業内容】日本のアート・アニメーション（授業内容）
 （映像活用授業）アニメーションの領域と概念・商業アニメーションとアートアニメーションについて・近年の日本アート・アニメーション
 【授業外学修】第1回目の授業内容をもとに現在視聴できる日本のアニメーションの種類、特徴、形態を検証しておく。その内容を踏まえて第2回授業では更に深く日本のアニメーションについて検証する

第3回【授業内容】アメリカのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でアメリカの代表的なアート系アニメーションについて
 【授業外学修】ディズニーやハリウッド製作のアニメーション映画と授業で紹介するアニメーション作品の差異について考察しておく

第4回【授業内容】フランスのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でフランスの代表的なアニメーション作家ポール・グリモー、ルネ・ラルー、シルヴァン・ショメ等の作品について
 【授業外学修】事前の授業で紹介されたアヌシー国際アニメーション映画祭について事前に調査しておく（映画祭の特徴、映画祭の歴史等）

第5回【授業内容】カナダのアニメーション
 （映像活用授業）カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）を代表する作家ノーマン・マクラレン、キャロライン・リーフ、コ・ホードマン等の作品について
 【授業外学修】カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）とオタワ国際アニメーション映画祭について事前に調

査しておく。授業後は、広島、アヌシー、オタワの映画祭の特徴と差異について考察する。考察内容は次時の授業でザグレブ国際アニメーション映画祭の紹介の際総合的に考察する

第6回【授業内容】クロアチアとチェコのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でクロアチアのザグレブ・フィルムとザグレブ国際アニメーション映画祭に関わる作品とチェコの代表的なアニメーション作家イジイ・トルンカの作品について

【授業外学修】中央ヨーロッパにおけるクロアチア(旧ユーゴスロビア)とチェコ(旧チェコスロバキア)の近代史(20世紀)を概観しておく。両国の歴史とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第7回【授業内容】ロシアのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でロシアの代表的なアニメーション作家ロマン・カチャーノフ、エドゥアールド・ナザーロフ、ユーリ・ノルシュテイン等の作品について

【授業外学修】ロシア(旧ソビエト連邦)の近代史(第2次世界大戦後)を概観しておく。社会主義国家体制とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第8回【授業内容】長編作品の鑑賞(個人活動)

(映像活用授業) 第1～7回の活動を踏まえ、作品1本を鑑賞する。

【授業外学修】授業後、これまでの学修内容を踏まえ、個人で作品分析、批評をおこない、レポートをまとめる

【アクティブ・ラーニング】上記(2)～(7)の授業においては、複数人グループのアクティブラーニング手法により作品の見方、感想の交換を随時おこなう

【授業外学修】授業で取り上げるアニメーション作品は、テレビやレンタルDVDなどで鑑賞することが難しい。

一方でYouTubeなどの映像配信システムの中で紹介されている場合もあるので、多くの作品、多種に渡る作品を各自で鑑賞しておくことが重要である。同時に自分独自の鑑賞視点を持てるよう、アニメーションにとどまらず映像作品がどのように分析、解釈されているかについて映画批評等を読むことを予習復習として取り組むことが望ましい。

履修上の注意/Notes

取り上げるアニメーション作品は、現在日本で普及している商業アニメーションとは異なる作品を対象とする。いわゆるディズニーや日本のテレビアニメーションのようなエンターテインメント作品を対象としないので注意すること。

映像作品に対して積極的、能動的に理解する姿勢を持てること。自分の見解を発表できるとともに他者の見解を受けとめる姿勢を持てること。遅刻をするとその時間の作品鑑賞に影響がでるため定時に出席すること。

人数制限(24名)がある。

オフィスアワー: 木曜日2時間目 メールアドレス: hiro1957@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

特に活用しない

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、映像作品に対して自分の見解を持つことができている。

A: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、説明できている。

B: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

C: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を最低限の修得をしており、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

D: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は行わない。

第1回～第7回の各授業での小レポート：70点（各10点×7回）

8回目授業後にまとめる個人レポート：30点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界と日本のアニメーションベスト150
著者名	
出版社	ふゆーじょんぶろだくと
出版年	2003
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・中学校および高等学校における教諭経験のある教員が、その経験を活かして世界のアニメーション文化について分かりやすく講義する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7904	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋藤 芳徳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

AI時代に必要なデザイン思考的発想法（1）

授業の概要/Course Overview

モノづくり・コトづくりの発想法について学修する。
 具体的には、グループのブレインストーミング（以下、プレスト）による発想法を用いて、アイデアを創出するとともに、アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）して、プレゼンテーションできるようにする。

キーワード/Keyword(s)

発想法, AI, モノづくり, コトづくり, ブレインストーミング, アイデア, デザイン, デザイン思考, 視覚化, モデリング

到達目標/Learning Objectives

- ・発想法のプロセスが理解できる
- ・発想法を用いてアイデアを創出できる
- ・アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）できる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス、発想法(1)の概要
 【授業外学習】発想法のレポート作成
- 第2回：【授業内容】発想法1-1 <発想法1のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法1のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第3回：【授業内容】発想法1-2 <発想法1のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法1のデザイン作成（個人）
- 第4回：【授業内容】発想法2-1 <発想法2のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法2のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第5回：【授業内容】発想法2-2 <発想法2のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法2のデザイン作成（個人）
- 第6回：【授業内容】発想法3-1 <発想法3のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法3のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第7回：【授業内容】発想法3-2 <発想法3のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法3のデザイン作成（個人）
- 第8回：発想法(1)のまとめ

*各課題でのアイデアが、既に市場で販売されていないか、必ず情報収集しておく。

履修上の注意/Notes

- (1) モノづくり、コトづくりに興味があること（「起業」に興味があればなお良い）
- (2) グループ作業に抵抗がないこと
- (3) グループでの実習作業になるので、各回ともに定時に出席すること
- (4) モデリング等に必要の道具や材料は、各自（各グループ）で購入する（1,000円程度～、金額は制作内容によって異なる）
- (5) オフィスアワー（木曜日11:50-12:40）
- (6) 実習の都合上、定員は20名以下

情報端末の活用

- ・毎回の授業時にはP C（またはスマホ）を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 発想法の基本的な知識と考え方を十分に修得し、プレゼンテーションできている。
- A : 発想法の基本的な知識と考え方を修得し、プレゼンテーションできている。
- B : 発想法の基本的な知識と考え方を概ね修得し、プレゼンテーションできている。
- C : 発想法の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、プレゼンテーションできている。
- D : 発想法の基本的な知識と考え方が修得できておらず、プレゼンテーションできていない。

成績の評価方法/Grading

- (1) 制作物70点（レポート10点,個人デザイン60点）/プレゼンテーション30点（グループの評価）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	AI時代の「超」発想法
著者名	野口悠紀雄 著
出版社	PHP研究所
出版年	2019
ISBN	978-4569843780
教材費	890

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	発想法の使い方
著者名	加藤昌治著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2015
ISBN	978-4532113322
教材費	860

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7905	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋藤 芳徳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

AI時代に必要なデザイン思考的発想法（2）

授業の概要/Course Overview

モノづくり・コトづくりの発想法について学修する。
 具体的には、グループのブレインストーミング（以下、プレスト）による発想法を用いて、アイデアを創出するとともに、アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）して、プレゼンテーションできるようにする。

キーワード/Keyword(s)

発想法, AI, モノづくり, コトづくり, ブレインストーミング, アイデア, デザイン, デザイン思考, 視覚化, モデリング

到達目標/Learning Objectives

- ・発想法のプロセスが理解できる
- ・発想法を用いてアイデアを創出できる
- ・アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）できる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス、発想法(2)の概要
 【授業外学習】発想法(2)のレポート作成
- 第2回：【授業内容】発想法4-1 <発想法4のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法4のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第3回：【授業内容】発想法4-2 <発想法1のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法4のデザイン作成（個人）
- 第4回：【授業内容】発想法5-1 <発想法5のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法5のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第5回：【授業内容】発想法5-2 <発想法5のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法5のデザイン作成（個人）
- 第6回：【授業内容】発想法6-1 <発想法6のプレスト・デザイン>
 【授業外学習】発想法6のデザイン・プレゼンテーションを考える（グループ）
- 第7回：【授業内容】発想法6-2 <発想法6のプレゼンテーション>
 【授業外学習】発想法6のデザイン作成（個人）
- 第8回：発想法(2)まとめ

*各課題でのアイデアが、既に市場で販売されていないか、必ず情報収集しておく。

履修上の注意/Notes

- (1) AI時代に必要なデザイン思考的発想法 (1) を受講済みであること
- (2) モノづくり、コトづくりに興味があること (「起業」に興味があればなお良い)
- (3) グループ作業に抵抗がないこと
- (4) グループでの実習作業になるので、各回ともに定時に出席すること
- (5) モデリング等に必要な道具や材料は、各自 (各グループ) で購入する (1,000円程度～, 金額は制作内容によって異なる)
- (6) オフィスアワー (木曜日11:50-12:40)
- (7) 実習の都合上、定員は20名以下

情報端末の活用

- ・毎回の授業時にはPC (またはスマホ) を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 発想法の基本的な知識と考え方を十分に修得し、プレゼンテーションできている。
- A : 発想法の基本的な知識と考え方を修得し、プレゼンテーションできている。
- B : 発想法の基本的な知識と考え方を概ね修得し、プレゼンテーションできている。
- C : 発想法の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、プレゼンテーションできている。
- D : 発想法の基本的な知識と考え方が修得できておらず、プレゼンテーションできていない。

成績の評価方法/Grading

- (1) 制作物70点 (レポート10点,個人デザイン60点) /プレゼンテーション30点 (グループの評価)

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	AI時代の「超」発想法
著者名	野口悠紀雄 著
出版社	PHP研究所
出版年	2019
ISBN	978-4569843780
教材費	890

教科書2

書名	見やすい資料の一生使えるデザイン入門：プレゼン資料が劇的改善
著者名	森重湧太 著
出版社	インプレス
出版年	2016
ISBN	9784844339632
教材費	1800

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	発想法の使い方
著者名	加藤昌治著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2015
ISBN	978-4532113322
教材費	860

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

現役デザイナーの教員が、その経験を活かして、AI時代に必要な発想法を実習を通して伝える

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7911	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	谷川 佳幸				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

オペラの世界

授業の概要/Course Overview

総合芸術と呼ばれるオペラは17世紀初頭イタリアで生まれ、芸術として磨かれると同時に、娯楽としても人気を集めます。作品の中に散りばめられた表現のための技術を知り、それをいかに発信しているのかを学びます。プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」を中心の題材として鑑賞し、グループで話し合いをすることで表現についての理解を深めます。

キーワード/Keyword(s)

オペラ、声楽技術、表現技術、台本、ラ・ボエーム、舞台語発音、演技

到達目標/Learning Objectives

<p>作品の中に込められたメッセージを読み解くことが出来る。そのメッセージを他者に伝えるための方法を見つけることが出来る。表現者が、どこに焦点を当てているかを見抜くことが出来る。</p> <p>ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解③課題解決能力・コミュニケーション能力④社会人としての姿勢</p>

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入 （講義） この授業の進め方。オペラが誕生するまで、オペラが本番を迎えるまでの稽古について</p> <p>第2回：喜劇作品について1 （映像活用学習） ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」を中心に声楽技術の発展と表現方法について録音、映像により解説。グループで台本と音楽について意見を出し合い、代表者が発表する</p> <p>第3回：喜劇作品について2 （映像活用学習） 「愛の妙薬」を見終え、作品が伝えようとしていたこと、演奏者や演出家が焦点としていたことをグループで話し合い代表者が発表する</p> <p>第4回：「ラ・ボエーム」第1幕、第2幕 （映像活用授業） 提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする</p> <p>第5回：「ラ・ボエーム」第3幕、第4幕 （映像活用授業） 提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする</p> <p>第6回：悲劇作品について 喜劇作品で扱った「愛の妙薬」と同じ作曲家ドニゼッティの「ランメルモールのルチア」 （ディスカッション）</p>

グループで第4回、第5回のメモをもとに、劇の中で音楽がどういう役割を果たしているか考察する。それを基に喜劇と悲劇の作品構成について話し合う。

第7回：ロマン派後期の作品について

ブッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」を鑑賞し、これまでの喜劇や悲劇の作り方との違いを考える。

(講義とディスカッション)

オペラの中でのレチタティーヴォとアリアについて解説した後、グループでこの作品の分類の仕方について話し合う。

第8回：

(発表とまとめ)

前半45分では第7回、第8回で出た意見をまとめてグループで発表。後半45分にまとめ講義と質疑応答を行う

第2、3回「バス学習」各グループで議論した後、各グループの発表を行いクラス全体としての意見をまとめる

第4、5回「ミニツツペーパー」鑑賞中は演技や音に集中して表現について探る。鑑賞後に気付いたことを書き留めておく

第6、7回「ワールドカフェ」グループで一旦意見をまとめた後、他のグループの意見を聞き、再度話し合って発表の準備をする

各回発表では、いかにしてグループの意見を明確に伝えるか、それが表現することだという意識をもって行う

授業外学習

初回に2回目以降に扱う作品について説明をするので、そのオペラに関連する作品（原作小説や、同じ作曲家の他の作品など）について授業までに読んだり見たりしておく。関連用語で不明なものは調べておくこと。

舞台作品について構成や見どころを学修したら、それ以降はテレビドラマや映画などについて類似点、相違点を意識しながら鑑賞することが必要である。

履修上の注意/Notes

まず作品を受け止める方法を身に付けることから始めますが、鑑賞するだけではなく、積極的にその表現方法について話し合うことが必要です。前半で解説をして後半で鑑賞する回やディスカッションする回がありますので、遅刻をすると全体の把握が難しくなります。できる限り定時に出席すること。オフィスアワーは木曜日4講時。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

最終回での発表により、到達目標の3つの観点から評価する。それぞれ関連したことなので、各観点到個別の配点は決めず総合的に評価するが、おおよそメッセージの読み解き（30%）、他者に伝える（40%）、表現者の焦点の見抜き（30%）とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オペラ対訳ライブラリー「ラ・ボエーム」
著者名	小瀬村幸子
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	1921073019005
教材費	1900

参考書2

書名	対訳ドン・パスクアーレ
著者名	河原廣之
出版社	オペラ読本出版
出版年	2016
ISBN	9784901780728
教材費	2700

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0791	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	音楽文化				
担当教員(ローマ字表記)	谷川 佳幸				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

オペラの世界

授業の概要/Course Overview

総合芸術と呼ばれるオペラは17世紀初頭イタリアで生まれ、芸術として磨かれると同時に、娯楽としても人気を集めます。作品の中に散りばめられた表現のための技術を知り、それをいかに発信しているのかを学びます。プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」を中心の題材として鑑賞し、グループで話し合いをすることで表現についての理解を深めます。

キーワード/Keyword(s)

オペラ、声楽技術、表現技術、台本、ラ・ボエーム、舞台語発音、演技

到達目標/Learning Objectives

作品の中に込められたメッセージを読み解くことが出来る。そのメッセージを他者に伝えるための方法を見つけることが出来る。表現者が、どこに焦点を当てているかを見抜くことが出来る。

ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解③課題解決能力・コミュニケーション能力④社会人としての姿勢

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

(講義)

この授業の進め方。オペラが誕生するまで、オペラが本番を迎えるまでの稽古について

第2回：喜劇作品について1

(映像活用学習)

ドニゼッティ作曲「愛の妙薬」を中心に声楽技術の発展と表現方法について録音、映像により解説。グループで台本と音楽について意見を出し合い、代表者が発表する

第3回：喜劇作品について2

(映像活用学習)

「愛の妙薬」を見終え、作品が伝えようとしていたこと、演奏者や演出家が焦点としていたことをグループで話し合い代表者が発表する

第4回：「ラ・ボエーム」第1幕、第2幕

(映像活用授業)

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第5回：「ラ・ボエーム」第3幕、第4幕

(映像活用授業)

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第6回：悲劇作品について

喜劇作品で扱った「愛の妙薬」と同じ作曲家ドニゼッティの「ランメルモールのルチア」

(ディスカッション)

グループで第4回、第5回のメモをもとに、劇の中で音楽がどういう役割を果たしているか考察する。それを基に喜劇と悲劇の作品構成について話し合う。

第7回：ロマン派後期の作品について

ブッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」を鑑賞し、これまでの喜劇や悲劇の作り方との違いを考える。

(講義とディスカッション)

オペラの中でのレチタティーヴォとアリアについて解説した後、グループでこの作品の分類の仕方について話し合う。

第8回：

(発表とまとめ)

前半45分では第7回、第8回で出た意見をまとめてグループで発表。後半45分にまとめ講義と質疑応答を行う

第2、3回「バス学習」各グループで議論した後、各グループの発表を行いクラス全体としての意見をまとめる

第4、5回「ミニツツペーパー」鑑賞中は演技や音に集中して表現について探る。鑑賞後に気付いたことを書き留めておく

第6、7回「ワールドカフェ」グループで一旦意見をまとめた後、他のグループの意見を聞き、再度話し合って発表の準備をする

各回発表では、いかにしてグループの意見を明確に伝えるか、それが表現することだという意識をもって行う

授業外学習

初回に2回目以降に扱う作品について説明をするので、そのオペラに関連する作品（原作小説や、同じ作曲家の他の作品など）について授業までに読んだり見たりしておく。関連用語で不明なものは調べておくこと。

舞台作品について構成や見どころを学修したら、それ以降はテレビドラマや映画などについて類似点、相違点を意識しながら鑑賞することが必要である。

履修上の注意/Notes

まず作品を受け止める方法を身に付けることから始めますが、鑑賞するだけではなく、積極的にその表現方法について話し合うことが必要です。前半で解説をして後半で鑑賞する回やディスカッションする回がありますので、遅刻をすると全体の把握が難しくなります。できる限り定時に出席すること。オフィスアワーは木曜日4講時。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

最終回での発表により、到達目標の3つの観点から評価する。それぞれ関連したことなので、各観点到個別の配点は決めず総合的に評価するが、おおよそメッセージの読み解き（30%）、他者に伝える（40%）、表現者の焦点の見抜き（30%）とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オペラ対訳ライブラリー「ラ・ボエーム」
著者名	小瀬村幸子
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	1921073019005
教材費	1900

参考書2

書名	対訳ドン・パスクアーレ
著者名	河原廣之
出版社	オペラ読本出版
出版年	2016
ISBN	9784901780728
教材費	2700

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--